

# Welfare

[ウェルフェア]

## 2015年度社会福祉助成事業 助成先決定!

2015

57

### CONTENTS

P2 くつきり! 福祉の未来形 ~日社済助成事業成果報告

「自閉症・発達障害児者支援セミナー」

認定NPO法人みやぎ発達障害サポートネット

P4 くつきり! 福祉の未来形 ~日社済助成事業成果報告

「TEACCH5デイ実技トレーニング」

社会福祉法人青森県すこやか福祉事業団

P6 「空飛ぶ車いす」青少年の活動レポート

空飛ぶ車いすプロジェクト IN 韓国・釜山

P10 2015年度社会福祉助成金交付団体

P11 福祉の共済コーナー

● 助成事業成果報告

# 「2014年自閉症・発達障害児者支援セミナー」

認定NPO法人みやぎ発達障害サポートネット

理事長 相馬 潤子

## 一、はじめに

本法人は、「発達障害のある人とその家族が、人格の尊厳を保ち、心身ともに健やかに安心して暮らせる社会づくりに貢献すること」というミッションのもと、自閉症・発達障害に関する理解啓発と支援活動を行っています。

【子供支援事業】療育事業プリズムでは、個々のニーズに応じたプログラムを設定し、保護者との協働療育を大切に取り組んでいます。放課後等デイサービス事業では、個々の特性に配慮した余暇支援等を行っています。

【保護者等支援事業】保護者の出会いと情報交換の場であるおしゃべりサロンや、相談対応セミナー等の開催、情報発信の事業に取り組んでいます。

## 二、助成事業概要

「2014年自閉症・発達障害児者支援セミナー」として、①自閉症・発達障害についての専門的な学びの場を提供すること。②障害や発達の特長について、正しい理解を広め、支援の

さらなる充実を図ること。という目的のもと、全2回のセミナーを実施しました。

◆第1回（平成26年8月30日）「自閉症スペクトラムの理解と告知について」〈講師〉吉田友子氏（児童精神科医・よこはま発達クリニック勤務）〈内容〉障害の正しい理解と支援について、子ども本人への伝え方について留意するべき事柄を具体的に学びました。

◆第2回（平成26年9月23日）「苦手が、できる」に変わる体の発達と生活動作について」〈講師〉鴨下賢一氏（専門作業療法士・福祉用具・特別支援教育）静岡県立こども病院勤務）〈内容〉体の発達の仕組みと作業療法としての視点が大切であることを知り、実践を交えて支援のポイントを学びました。

## 三、事業の成果

全国的に活躍されている講師の先生方の講話は、多くの実践例を交えた内容で、参加者が理解や支援の方向性を再確認でき、新しい視点も得られたと感じている。それは、参加者から寄せられた言葉にも表現されており、

今後、着実な支援に結びついていく有意義なものであると考えます。



第1回セミナー

保護者や家族、支援者（保育士、幼稚園教諭、教師、福祉事業所職員）など、延べ200名の参加となり、多くの人が、学ぶ場を設けることで発達障害理解への歩みを進めていると考える。参加が、対象児者への理解を深め、支援に活かすための大きなヒントを得たことにより、対象



第2回セミナー

児者のより安心・安定した生活と、周囲との関係性の改善など、将来への展望を持つことに貢献できたと考ええる。

第1回セミナーでは、幼少期からの成功体験と自尊心の積み重ねが、のちに告知を迎える時期の本人自身の受けとめに重要になってくるということを再認識させられ、日頃の支援の大切さをあらためて考えることができた。また、多くの支援者が、療育や相談の場面で保護者とともに考えていけばよいかの指針を得ることができた。

第2回セミナーでは、作業療法としての視点から、体の仕組みや支援のポイントを学んだ。様々な動作の際に見られる不器用さには原因があることを知り、体の発達には順序があることや、細やかな動作は段階を経て習得されていくことを学んだ。多く

の実践に基づいた内容であり、大変分かりやすかった。セミナー後、学びを活かして家庭で実践したり、当法人療育事業で取り入れた。その中で、子どもをサポートする際に、褒めながら肯定的に関わるという、障害特性に寄り添った支援のあり方を実感することができた。

セミナー終了後に作成した報告書を500部配布し、より多くの人にこの事業の成果を伝えることができた。セミナー開催にあたっては、2つのねらいのもと、職員が一丸となって取り組み、実現できたことを、それぞれの役割の中で感じることができた。また、対象児者への理解と支援についての必要性をあらためて実感し、活動意欲を高めることができた事業となった。

#### 四、成果の広報・公表

ブログ「虹っ子広場」では、8月30日に第1回セミナー、9月23日に第2回セミナーの報告記事を掲載した。ブログのアクセス数は、一日120～150件。ツイッターやフェイスブックによる拡散が図られている。

会報誌「すぽっと」第95号（9月25日発行）には第1回セミナー「自閉症スペクトラムの理解と告知について」、同第96号（10月25日発行）には第2回セミナー「苦手ができる」に変わる体の発達と生活動作について」の報告記事を掲載し、会員および関係各所に合計2000部配布し、成果の公表を試みた。

事前準備としては、講師の方と内容や日程の調整、会場の準備、案内チラシの作成・配

布、資料の作成等を行った。2回のセミナー実施終了後、会報誌での報告と、事業の実施内容をまとめた報告書を作成し、会員と関係機関に500部配布した。

#### 五、今後の課題

今回のセミナー終了時に実施したアンケートから、「学ぶ機会」を強く求める声が多数寄せられた。その内容は、発達障害の理解や支援のあり方について様々な事柄があり、中でも、思春期の対応に関することや、大人になった方の事例を知り、今の子育てに活かしたいという声寄せられている。

しかし、自閉症・発達障害の診断数は全国的に増加傾向にあるが、診断後、必要とされる障害の理解や支援のあり方について学ぶ機会、本人や家族を支える場が、まだまだ不足しているのが現状である。

そこで、発達障害に関する現状の把握に努め、ニーズを整理して、次年度以降も理解と支援に結びつく研修会を実施したいと考える。より多くの方に参加していただけるよう、テーマを設定する、対象者に効果的に呼びかける、周知の仕方を工夫する、開催時期を吟味するなど、有意義な研修会が開催できるよう、計画的に進めたい。

「発達障害のある人とその家族が、人格の尊厳を保ち、安心して暮らせる社会づくりに貢献すること」という法人の活動目的を抱きながら、自閉症・発達障害の理解と支援がより一層広まるよう、団体として継続的に活動したいと考える。

● 助成事業成果報告

# 「TEACCH5デイ実技トレーニング」

社会福祉法人 青森県すこやか福祉事業団

理事長 佐々木 悟

## 一、はじめに

「多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成され、又はその有する能力に応じ自立した日常生活を地域社会において営むことができるよう支援すること」を目的として、当法人は昭和52年12月に設立されました。

事業内容は、第一種社会福祉事業・障害児入所施設・養護老人ホームや障害者支援施設の経営、第二種社会福祉事業・障害福祉サービス事業所の経営・青森県発達障害者支援センターの受託経営・老人居宅介護等事業所・相談支援事業所や障害児通所支援事業所の経営、公益を目的とする事業・知的障害児（者）親子指導事業・青森県長寿社会振興センター・知的障害者職場適応支援事業・日中一時支援事業や青森県民福祉プラザの受託経営・居宅介護支援事業所（あんじょう）や生活塾の事業所（ライフサポートあおば）の経営・あおもり出会いサポート事業の受託経営・福祉有償運送事業からなっております。

## 二、助成事業概要

- 1 派遣研修名 TEACCH5デイ実技トレーニング
  - 2 日時 平成26年8月17日～21日
  - 3 場所 佐賀市民体育館
  - 4 講師 ジョイス・ラム博士（TEACCHシャーロットディレクター）、ルース・フライ氏（TEACCHシャーロット クリニカルスーパバイザー）、服巻智子氏（TEACCHインティペンデントトレーナー）、諏訪利明氏（川崎医療大学）
  - 5 研修内容 TEACCH5デイ実技トレーニングは、自閉症スペクトラムを持つ個人の協力のもと、両親や専門家のためのトレーニングプログラムであり、アメリカのノースカロライナ州で行っている自閉症スペクトラムを持つ個人のための質の高いサービスの需要に応じた総合的なプロ認定のプログラムである。
- 実際に自閉症を持つ4人の子供たち・青年たち  
に実技・実習に協力していただき、受講生は、  
全25名の自閉症スペクトラムの支援の専門家であり、5人で1チームとなりTEACCHのエ

ビデンスに基づく実践を学んだ。研修は包括的プログラムと個々の方略が根拠に基づいているかの二つの視点で進められ、ストラクチャードトレーニングを使用した実践を行った。



実技トレーニング

## 三、事業の成果

TEACCHは地域ベースのサービスであり、教室だけではなく、地域や家庭で応用できる。どんな視覚支援が重要なのか考えながら進め、一人ひとりの自閉症児者に合わせた個別のTEACCHカリキュラムと基盤となるアカデミックカリキュラムが必要となる。その人の自閉症が、その人にどのような影響を与えているかを考えスキルを教え、柔軟な思考（変更）を教える。そのために個々の視覚支援を展開して

いくものである。

どんなスキルを教える場合でも、すべてはまずアセスメントから始め、能力・理解がどの程度かを確かめる。そして、本人にとって必要な最小限の介入と本人のニーズに合わせた最大限の支援を行う。支援は発達面から考えたアプローチを行うため、発達年齢も考慮し、成人期への移行も視野に入れ、本人の自立・セルフアポッドガシー・般化を意識してどのような方略を使うかを考える。そのため、TEACCHの構造化を最大限に有効化するためには、幼少期の早い段階から取り入れること、一貫性を持つこと、いろんな職種の中で協働すること、そしてアセスメントを継続していくことが重要である。

今回のトレーニングでは、自閉症スペクトラムの特性・構造化を学び、アセスメントをもとに自立を視野に入れた実践を行った。自立課題・コミュニケーション・コミュニケーション・社会性・余暇の領域において具体的に支援を進めていった。すべてはアセスメントから始め、アセスメントは常に継続的であり、それぞれの領域ごとに強いめばえのスキルを指導していく。機能的で意味のあることを教え、自立し般化できるように個別化・視覚化して教える。そしてフィードバックし、必要に応じて再構造化をした。受講生が行った支援は毎回グループ討議でフィードバックをする方法であった。

さらに、ストラクチャーティーチングでの実践のほか、保護者パネルやゲストスピーカーがあり、保護者さんの想いや当事者さんの話を聞くことができた。

この研修内容をスタッフ全員が共有することで、事業所全体のスキルアップにもなり、更には質の高いサービスに繋がって行くことが期待できる。

#### 四、成果の広報・公表

事業所内での研修報告を実施した。研修内容の説明及びストラクチャーティーチングについての説明を行いTEACCHに学ぶ視覚支援のあり方・進め方の方略を伝えた。また、構造化の有効性と受講生としての学びをこれからのように活かしていくのか報告をした。研修報告は事業所の広報誌及びホームページにも掲載予定である。

実際の支援現場ではTEACCHに学ぶ視覚支援を実践し、支援者へのOJTを行っている。アセスメントの必要性を伝え、アセスメントをもとに様々な方略を使った実践や個別化された支援を実践している。また、保護者さんへの研修報告、それぞれのお子さんに合わせた視覚支



実技トレーニング

援の必要性を説明し、今まで以上の家庭との協働を進めている。

法人内では所属長への報告のほか、復命書を通して職員への報告を行っている。

#### 五、今後の課題

事業所内でTEACCHに学ぶ視覚支援のあり方の共通理解を持ち、ストラクチャーティーチングを取り入れた個別化された支援の実践を継続していく。各ステージでの移行期では、個々の特性に合わせたストラクチャーティーチングの引き継ぎを丁寧に行い、般化を意識した移行支援を行っていく。そして、チームとしての支援の向上を図り、チームスタッフのスキル向上・人材育成に繋げていく。

また、法人内外への普及活動を始め、発達障害者支援センターや各事業との連携を密にし、自閉症スペクトラムの方々が過ごしやすく生活しやすい地域づくりに貢献していく。

この研修の成果はとても大きなものであり、なによりもノースカロライナからの講師陣から直接指導を受けることができる5デイ実技トレーニングを経験すること自体に大きな意味がある。TEACCHに学ぶ視覚支援を実践している支援者にとっては5デイを受けることの重要性は大きく、受講後の意識の向上・スキルアップ・地域への貢献が成果としてあるため、今後も多くの支援者がTEACCH5デイ実技トレーニングセミナーを受講できることを望む。

# 空飛ぶ車いすプロジェクト—N 韓国・釜山

日本の高校生・大学生が使われなくなった車いすを修理して、海外の人たちにプレゼント活動を継続実施しております。このたびは、韓国・釜山の老人ホーム、障害者福祉館を訪問し、車いすを直接プレゼントされました。



10台を寄贈したホサン老人ホームでは利用者の方も出迎えてくれた



5階建てのホサン老人ホーム



韓国・金海空港に着いた車いす



両国スタッフの懇親会

新潟医療福祉大学、神奈川工科大学の学生4人と一般

のボランティア5人、韓国現地ボランティア5人の合計14人が参加し、2014年12月26日～30日の5日間、韓国の釜山で活動を行いました。車いすは大韓航空の協力で日本から16台を運ぶ事ができ、老人ホームや障害者福祉館に寄贈されました。

「韓国で車いすを必要としている方に直接お届けする」「韓国の福祉に対する現状を知る」「日本と韓国間の空飛ぶ車いす活動の結びつきを強める(交流)」という目的をもった5日間に渡った活動をご報告いたします。

## 12月26日(金)

Aチーム 18時・成田空港に集合。寄贈車いす14台を受け取り22時・韓国の金海空港へホテルに到着。

## 12月27日(土)

Bチーム 朝・羽田空港に集合、釜山へ出発。釜山障害者福祉館にてAチーム、現地ボランティアと合流、車いすの最終点検を行う。夕方は日韓両国ボランティア

スタッフの懇親会を実施、明日以降の活動に備える。

## 12月28日(日)

釜山の老人ホームを訪問し、車いす8台を寄贈した。施設は地下1階から地上5階建てとなっており、ベッドが置いてある各階には約30人ずつが入所されている。現在は全体で88人が入所されているとのことだった。リハビリルーム見学では設備は整っているのに使いこなせる職員がいけないという現状を知りました。

韓国の施設では車いすを使用する場合、施設のものを利用するのではなく個人で購入することだった。国から助成金が出ないため経済的負担は大きい。そこで、施設に寄贈することで多くの方に車いすを使用してもらえ、車いすを寄贈した際、利用者の方々が手を握って「ありがとう」と何回も言ってくれたことがとても印象的だった。

海外での活動は特に修理で終わらずその先の利用者にお渡しする所まで関わることができるので自分自身の達成感や感動は通常の何倍もあり、これが次の活動につながる原動力になります。

## 12月29日(月)

釜山障害者福祉館訪問 この日は日本から輸送した車いすの点検に加え、福祉館の車いすの点検、修理や



釜山障害者福祉館の講堂にて古い車いすの修理とタイヤ交換の作業

夕刻、金海空港より帰国の途についた。釜山障害者福祉館を再訪し、福祉用具の展示を見学。実際に見て、日本とほとんど変わらないように感じたが、「福祉に関しては発展途中で改善すべき点がたくさんある」とのお話でした。高齢化が進む日本と韓国で助け合うことで福祉に関してお互いに発展できるのではないかと感じました。

12月30日（火）釜山障害者福祉館を再訪し、福祉用具の展示を見学。実際に見て、日本とほとんど変わらないように感じたが、「福祉に関しては発展途中で改善すべき点がたくさんある」とのお話でした。高齢化が進む日本と韓国で助け合うことで福祉に関してお互いに発展できるのではないかと感じました。夕刻、金海空港より帰国の途についた。

ノーパンクタイヤへのタイヤ交換を行った。修理の後は福祉館にて車いすの贈呈式。日本の高校生、大学生が修理した車いすを福祉館へ寄贈しました。福祉館の館長や前館長さんから韓国の福祉制度についての話を聞きました。



子供の体に合う車いすを選定する釜山障害者福祉館職員



福祉用具の展示を見学

## 贈るだけでは十分ではない

新潟医療福祉大学 FWS

3年 佐藤駿一

私は授業の関係で28日から参加した。28日はホサン老人ホームへ10台の車いすを寄贈。贈呈式には入所者8人と職員10人が集まっていた。直に接することができた。そして一緒に車いすにシールを貼り付ける事で直接入所者の方と触れ合えることができた。笑顔を見ることができた。29日は釜山障害者福祉館で車いす修理。この日は日本から輸送した車いすの点検に加え、福祉館の車い



釜山障害者福祉館にて



ホサン老人ホームにトラックで車いすを揃入する学生たち



古い車いすの修理とタイヤ交換作業

すと前日に訪問した老人ホームの車いすの修理やタイヤ交換を行った。最終日の30日は朝から再び福祉館を訪問し、福祉用具の展示を見学した。実際に見た機器は日本とほとんど変わりはなく、自具や姿勢保持装置にしても日本と同じようなものが多く驚く事が多かった。しかし、話を聞いてみると製作している企業が少なく車いす自体はあっても姿勢保持用のクッションなどはほとんどないというのが現状であった。姿勢保持の重要性はわかっているにもかかわらず、日本から車いすと一緒に送られている座位保持装置が韓国で必要とされているかがわかった。

今回特に感じたことは、ただ車いすを贈るだけでは十分ではないということだ。前回参加したタイでは車いす自体が貴重だったため座位保持装置などに視点を当てることはなかった。しかし、韓国ではまだ十分とは言えなくても車いすが身近にある。これからの韓国の車いすなどの福祉用具の

発展を支援するうえで、日本国内で車いすを収集する際に小児用を中心に座位保持装置などのオプションも収集するなどの工夫が必要だと感じた。今後も新潟医療福祉大学はこの「空飛ぶ車いす」への参加を続け、工業系の参加校が多い中で医療福祉という他分野からの目線でも本プロジェクトの発展を支援していきたい。また、自分自身も大学卒業後は一人の義肢装具士として本活動に参加していきたいと思う。

## 助け合うことが お互いの発展につながる

新潟医療福祉大学 FWS  
2年 中野雅之

28日に訪問したホサン老人ホームの職員の話では、韓国では車いすの購入に関し、自宅介護者は国から助成金が出るが、施設利用者は基本的に自己負担になっているため施設自体では購入しないらしい。施設費や車いす代など個人への負担が大きい。従って施設での車いす需要は高く、このプロジェクトはとても助かっていると話してくれた。利用者の方が嬉しそうに話をされたり、手を握って「ありがとう」と言ってくれた。この活動はただ中古車いすを再生して送るというだけではなく、その先には使ってくれる利用者の方があることで成り立っている。直接寄贈する体験は海外や現地まで赴かないとできないが、利用者の方の笑顔を見ると日頃自分達がやり続けてきたことを改めてやってきてよかったと感じることができ、この活

動の本当の目的を教えてくれる気がする。その後は福祉館にて寄贈式が開かれ、日本で様々な高校生や大学生などの空飛ぶ車いすプロジェクトメンバーが修理した車いすの寄贈が無事に完了した。今回韓国を訪問してみても韓国の福祉に関することを中心に多くのことを学ぶことが出来た。また国際交流として多くの韓国の色々な方と話す機会もあり、福祉に関すること以外に食や風習などの文化についても学ぶことが出来たよ活動となった。これからも学ぶことも多く、また学校では変わらず車いすを修理して過ごしていくが、まだ海外へ行っていない人や後輩に海外に出ないこと、感じられる事など多くのことを伝えていきたい。また、様々な事を学ば



車いすの最終調整作業



10台を寄贈したホサン老人ホームでの車いす贈呈式

せてくれるこの活動の素晴らしさを広げていきたいと思う。

## 感謝の嵐にのまれて、前に進む

新潟医療福祉大学 FWS  
2年 石川由佳子

タイ、スリランカそして韓国……。私が空飛ぶ車いすプロジェクトに参加して3カ国目の活動だった。海外に出るたび「日本って本当に恵まれたいい国だなあ」と痛感する。同時に異文化に触れ新たな発見、感動が生まれる。色々な意味で空飛ぶ車いすから私は大きく影響を受けている。まず一つ目は輪の広がりである。今回の参加者は日本人女子が私だけだった。韓国では初めて会う人も何度か会っている人もいて、ずっと一緒にお話をした。活動内容や目的は国が違えどみんな一緒に言葉の壁を越えて韓国語を教えたり、日本語を教えたりしてうまくコミュニケーションを取った。挨拶しか知らなかった私は帰国後、簡単な自己紹介ができるようになった。SNSで繋がれるようになった。海外に行くことで互いの文化や考えを肌で感じ、友人の輪が広がってくる。また次も参加したい！と思う。二つ目は日本の当たり前前、普通は通用しないことに驚き考えさせられた。どこの国にもお年寄りはいいて、物に頼って生きなければならぬからこれがいい！と断言できるものはまだないけれど、世界が平等に暮らしやすい国になれるといいなと思った。空飛ぶ車いすに参加するたびに、本当に活動に参加してよかったなと思



喜ばれる利用者さん

う。中でも利用者と対面し、車いすを寄贈する時間が好きだ。渡した瞬間に「ありがとう」といわれる。泣いて喜んでくれる方もいる。私たちが日本でも何気なく行っている修理活動は海外に行けば感謝されるものになる。ホサン老人ホームでおばあさんと一緒にプロジェクトの証であるシールを車いすに貼った。そのあとずっと私の手を握って離さなかった。ずっとありがとうと言ってくれて、「日本でも夢に向かって頑張るんだよ、元気でね」と言ってくれた。日本で車いすの修理は時間の無駄とか物好きだねと思われるかもしれないけれど、海外に行ったらたん感謝の嵐になる。私はその嵐にのまれて空飛ぶ車いすを好きになった。今後もこの活動をたくさんの人に広めてぜひたくさんの人に参加してもらいたいと思っっている。海外に出れば今までにない刺激を受ける。嫌になることもゼロではないけれど、今までと変わった考え方も生まれる。わたしはそれが好きだしなんとなく前に進んでいる気がする。

・韓国では成人男子に兵役の義務があり、女性は兵役を終えた男性と結婚する人が多いため晩婚化が進んでいる。従って高齢出産も珍しくはないようです。出産年齢が高いほど障害児が生まれてしまうリスクが高いとされており、このような背景の韓国では先天性奇形や脳性麻痺などで座位保持ができない子供たちもいるので、小児用車いすが必要とされているようです。

・車いすクッションについて  
タイやスリランカなどほかの発展途上国に比べると韓国では比較的車いすが普及しているが、まだ十分ではないと感じました。  
また、車いす本体があっても座位保持用のクッションを製作する技術がないので、日本から車い

## 「プロジェクト・イン・韓国・釜山」活動のまとめ



利用者さんとのコミュニケーション

すと共に贈られるクッションが大事だということが分かりました。

### ・韓国の福祉用具の状況

福祉館の展示場を見学した限り、日本と大きな差は見られず同じようなものが多いように感じました。強いて言うならば、コミュニケーション機器に関してはキーボード型のものが多かったように感じます。しかし、このような機器が一般に普及しているわけではなく、普及していないものはレンタルするそうです。種類は日本とそう変わらなくても、開発・拡充する部分に関してはまだまだこれからのように感じました。

### ・訪問した老人ホームについて

今回訪問した老人ホームに8台の車いすを寄贈。この老人ホームで車いすを使用したい人は個人で購入する形になっており、施設が所有している車いすの数では足りません。日本の場合は個人の私物もあるが、殆どは施設が所有しており、それを使用できるようになっています。韓国では自宅介護でないと国からお金が出ないため経済的負担が大きく、そういった面で厚いケアが受けられない場合もあるのではないかと思います。

韓国で車いすを必要としている方に直接お届けする今回の活動により、前述の通り、色々な現状を知ることが出来ました。

今後とも、有意義な「空飛ぶ車いす活動」を続けていきたいと思っております。

日社済ではこれからも空飛ぶ車いす活動を支援していきます。学生たちの精力的な活動内容に、ぜひご注目ください。

# 2015年度 社会福祉助成交付団体

事業名	団体
2015年度活動報告会の開催と事業報告書の発行	iCareほっかいどう
人の心により添うための自殺予防公開講演会～メンタルヘルスファーストエイド	函館家庭生活カウンセラークラブ
実践的な防災・減災対策のための研修	弘前豊徳会
2015年自閉症・発達障害児者支援セミナー～成人期から学ぶ将来を見据えた支援のあり方	みやぎ発達障害サポートネット
第5回公開講演会	エル・ファロ
発達障害(児)に対しての言語療法(言葉)に関しての家族、市民、職員向けの講演会	日本キングス・ガーデン
音楽療法事業 『低出生体重児に対する音楽療法セミナー』	生涯発達ケアセンターさんれんぶ
市川市 北部地域交流事業	しゃり
読書に障害のある人の自立生活をささえるアシスティブテクノロジー(AT)講習	桜雲会
重度障害のある人向け在宅就労セミナー「働くカタチは、ひとつじゃない」開催	東京コロニー
新たな地域福祉サービスの創造「ダイアログ(対話)する地域社会」の実現	クラブハウス町田
地域に根ざす多様な中間支援組織の支援力向上研修	東京ボランティア市民活動センター
第60回全国里親大会鹿児島大会	全国里親会
第53回全国知的障害福祉関係職員研究大会	日本知的障害者福祉協会
性犯罪・性暴力加害者に対する立ち直り支援・犯罪防止を学ぶ支援者研修	日本子どもソーシャルワーク協会
聞こえの啓発リーダー研修	東京都中途失聴・難聴者協会
地域力をアップさせるための研修会	バリアフリーセンター・福祉ネット「ナナの家」
TOYらいぶらりあん養成講座【中級】	おもちゃの図書館全国連絡会
アレルギー相談をテーマにした事例検討会	アトピック地球の子ネットワーク
車いす修理&メンテナンス技術講習	神奈川工科大学車いす修理屋
すべては子供たちの幸せのために	阿賀野児童福祉会
傾聴基礎講座	長岡傾聴ボランティアサークル
車いすシーティング講習会	新潟医療福祉大学
若年性認知症、初期認知症を知り、よりよく生きる(よりよく支援する)為の連続講座	コーポラティブハウス木の実
遠隔支援システムを使った聴覚障害児への情報保障の研修及び実践	長野サマライズ・センター
障害者の職場定着の為に就労移行支援事業所が出来る事	明光会
第50回関東ブロック乳児院研究協議会	静岡恵明学園
第2回ソーシャルファームジャパンサミット in 滋賀～就労困難者の支援の仕組みをデザインするフォーラム～	共生シンフォニー
ろうあ者成人学校	大阪聴覚障害者協会
「介護施設ならではの」ターミナルケアを進めるために	介護保険市民オンブズマン機構大阪
弱者を救う(触法障がい者)連絡協議会	堺西自立支援センター
知的障害者とご家族のために～支援力アップ研修～	みちしるべ神戸
みんなの支援フォーラムIN～E・G・Fからの実践報告と検証～	E.G.F
九州地区フリースクールスタッフ研修会	フリースクール クレイン ハーバー
第3回講演会	三気の会
児童福祉施設支援者研修劇あそびによるソーシャルスキルトレーニング	こじいの森・こどもの時間
北欧3か国による視察研修	東京栄和会
「英国メリデン版訪問家族支援」普及プロジェクト	全国精神保健福祉会連合会
地域介護力の底上げを目指す「人生劇場紙芝居」の活用による参加型ナラティブ・ケア	鹿追恵愛会
ひきこもりピア・サポーターによる手紙を活用した効果的なアウト・リーチ	レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク
高齢者虐待対応における課題の整理とその解決方法の考察	社会福祉士事務所にじみる
仮設サロン活動を通して学ぶ「仮設後の暮らし」に関する意識調査	支えあう21世紀の会
「100歳そばで高齢者に生きがいを」	ふじさわ団塊塾
日韓知的障害者文化・スポーツ交流	静岡県ハンディキャップサッカー委員会
障がい児のきょうだいを支えるワークショップ～つながる、響き合おう～	名古屋キリスト教社会館
琵琶湖のヨシ活用による障害者、高齢者支援環境保全プロジェクト	モスグリーンEco
厚労省オレンジプラン「認知症カフェ」の運営	城南健康ふれあい倶楽部
病院における医療ソーシャルワーカーの適正配置調査	大阪医療ソーシャルワーカー協会

## 助成対象事業／助成内容

	対象事業	対象経費	助成額
研修事業	集合研修	講師謝金・交通費・宿泊費・会場費・報告書作成費	助成対象項目経費合計の80%以内かつ50万円以内
	派遣研修	交通費・宿泊費・報告書作成費	
研究事業	実践研究	事業費・調査経費・報告書作成費	
	調査研究	調査経費・謝金・原稿料・報告書作成費	

## 「空飛ぶ車いす」の活動で第18回ボランティア・スピリット賞(通称:SOC)のブロック賞を受賞した「浮羽工業高等学校」のインタビューを紹介します！

福祉の共済を推進しているジブラルタ生命は、地域に根差した企業であり続けるために、全国各地で社員による福祉施設でのボランティア活動や、地域でボランティア活動に励む青少年を応援するプログラムを実施し、福祉や教育分野での社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。今回は日社済の支援事業である「空飛ぶ車いす」の活動でボランティア・スピリット賞(以下SOC)のブロック賞を受賞した「福岡県立浮羽工業高等学校」濱田さんのインタビューを紹介します。



全国表彰式で活動内容を説明する濱田さん

### 貴重な体験をさせてくれた「空飛ぶ車いす」活動

「空飛ぶ車いす活動」をすることで、本当に色々な経験をさせていただきました。主な活動時間は放課後でしたが、夏休みには寄贈国を訪れ、これまでにタイに2回、去年は台湾に1回訪問してきました。また、被災地支援の活動として、震災があった2011年と翌年2012年に被災地を訪問し、一般の方々との合同ボランティア活動をする機会もありました。空



子どもたちとの合同空飛ぶ車いすボランティアの様子

飛ぶ車いす活動に携わることで、普通の学校生活を送ったのではできない貴重な体験をすることができ、とても成長させていただいたと思います。

### たくさんの仲間に出会えたSOC

SOCには様々なボランティア活動をしている中・高生が集まり、その活動内容はとても参考になりました。特に海外に視点を置いた活動は大変勉強になりました。また、自分たちの活動を振り返る機会となり、派手ではないが、やるのが大切。そして皆の協力があってこそその活動だと、改めて感じる事ができました。SOC全国表彰式後は地域の新聞にも活動が取り上げられ、「空飛ぶ車いす活動と一緒にやりたい」と言ってくれる中学生が増えており、とても嬉しく思いました。私は卒業し、4月から就職をしますが、この活動がこれからもっと広がっていくことを楽しみにしています。



ボランティアは「成長」と発表した濱田さん

## PRUDENTIAL SPIRIT OF COMMUNITY 第19回 ボランティア・スピリット賞

アワード



締切日  
2015年  
9月11日(金)  
当日消印有効

### 表彰

- ◆ 応募者全員  
感謝状と記念品を贈呈
- ◆ コミュニティ賞【全国より150名(グループ)】  
活動支援金2万円、表彰状、銅メダル
- ◆ ブロック賞【全国より40名(グループ)】  
活動支援金5万円、表彰状、銀メダル
- ◆ SOC奨励賞【ブロック賞受賞者より8名(グループ)】  
活動支援金10万円、表彰状、クリスタルトロフィー
- ◆ 米国ボランティア親善大使【ブロック賞受賞者より2名】  
アメリカ・ワシントンD.Cでの全米表彰式にご招待、金メダル
- ◆ 文部科学大臣賞【ブロック賞受賞者より2名(グループ)】  
活動支援金10万円、表彰状、金メダル、クリスタルトロフィー

### 応募要領

- ◆ 応募締切 2015年9月11日(金) 当日消印有効
  - ◆ 対象活動期間 2014年4月以降に行われた(行われている)活動
  - ◆ 応募方法 ボランティア活動の内容、活動を通じて学んだことなどを応募用紙に記入してください。社会に貢献する活動であれば分野は問いません
  - ◆ 対象 グループ応募：中学・高校生が活動しているグループ  
個人応募：応募締切時12歳以上18歳以下
  - ◆ ホームページもご覧ください！(携帯からもアクセス可能)  
www.vspirit.jp
- ※応募用紙はホームページからダウンロードいただけます  
※ホームページからでも直接ご応募いただけます

■ 主催：ジブラルタ生命保険(株)／プルデンシャル生命保険(株)／プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル生命保険(株)／日本教育新聞社  
■ お問い合わせ先：ボランティア・スピリット賞事務局  
〒100-0014 東京都千代田区永田町2-13-10 プルデンシャルタワー 電話 03-5501-5364



# くっきり! 福祉の未来形

# ニッ シャ サイ 日社済の 主な事業



## 社会福祉助成事業

公募による社会福祉関係者の研修・研究事業等への助成を行っています。



## 介護福祉士資格取得支援事業

福祉最前線で働きながら資格取得を目指す方々への支援のために、模擬問題・過去問題解説集を提供しています。また、提携先県社会福祉協議会の受験対策講座への助成も行っています。



## アジア福祉助成事業

全国社会福祉協議会と連携した福祉の国際協力パートナーの養成と、その活動の支援・助成を行っています。



## 空飛ぶ車いす支援事業

アジア等の障害をもつ方々への車いす修繕・寄贈を支援しています。



## 社会福祉関係者の共済に関わる事業

福祉関係者の福利向上のために提携会社を通じて団体扱生命保険を提供しています。

